

『介添』 ～講習会へ行くと介添が待っていました～

野々市市 中島充博

6月19日（日）、富山県の射水市・大島での北陸三県中堅層講習会に参加しました。

北陸三県の四・五段を対象とした講習会ですが、二週間後の連合審査を見据えて当日と同じ会場での直前練習の意味合いが強い講習会です。弓の仲間が何人も参加するので、私もたまに県外の大きな道場で引いてみたい気持ちもあり、また普段なかなか接する事のない県外の先生方の指導を楽しみに軽い気持ちで参加しました。（が、梅雨時期で気温も30度に迫るという天気予報に、着物での講習会に申し込んでしまった事を少し後悔も…）

大島の道場は金沢からもとても近く、先週は錬士の中央審査が行われ仲間の応援と範士の先生方の射を拝見する目的でやはり朝から高速を飛ばしてやって来たので二週連続となります。少しのんびりめに道場に到着して受付を済ませ、日程の確認にホワイトボードの前へ行くと美川の柏屋さんから「介添あたっとるよ」と告げられて軽くパニックに…、ひょっとして、という予感はありませんでしたがまさか現実に自分が第一介添などとは今回は油断してしまったく心の準備がなく、時間的にも急速に余裕がなくなっていくます。

慌てて着替えに更衣室へ向かうと今日一緒に介添を務める事になった福井の女性がまだかまだかと私を待っていました。簡単に顔合わせを済ませ射手への挨拶を私が着替えるまで待ってもらう事となり、急いで着替えますがただただ焦るばかり…、さらにゼッケンの紐がするっと抜けてしまうハプニングもあり完全にパニック状態です。（どのくらい慌てていたかと言うと襦袢だけ羽織って角帯を締めてしまうくらいの末期症状！）ゼッケンはその後受付をされていた富山の女性にお願いして髪留めの針で手早く器用に紐を通して頂きました。（感謝）

さて、本日の射手である富山の岡本仁先生への挨拶に向かいます。控室から出てこられるのを待とうか二人で相談しましたが早めにこちらから出向いたほうが良いだろうと襦袢の引手をノックして「失礼します！」と中へ入ります。と、中では講師の先生方が勢ぞろいして何やら打ち合わせ中、岡本先生は奥で着替えの真っ最中という最悪のタイミング！まずいと思いながらも引っ込みがつかずそのまま勢いで「岡本先生、今よろしいでしょうか？」とお伺いすると「んっと…、ちよと後にしようか」と。がーん！そりゃそうだ、この状況はどう見ても遠慮するのが当たり前、「はい、失礼しました、のちほどご挨拶を」と言って部屋を後にする事しか出来ませんでした。少しずつ冷静さを取り戻し、汗かきなので少しでも風に当たりたくて一人射場へ…。道場の広さを確認して第一の控えるのは壁ぎわのこの辺りかな、などとイメージを膨らませ、一通り頭の中で所作を確認してから第二の女性と二人で岡本先生を待ちます。

果たして出て来られた岡本先生は皆さんご存知の通り気さくなお人柄です。介添を務めさせて頂く事を心から光栄に思いながらしかし、立つタイミング等はまったく頭に入っていない。まあ良いよ、今更どうにでもなれと開き直ったところまでは良かった（良いのか？）のですが「じゃ、替弓はここに」と言われてふたたび軽いパニックに。（替弓？替弓！！）表向きは平静を装うものの替弓

受渡しの所作がこれまた頭にありません。先生が控室に戻られたあと慌てて鶴来の小山さんをお願いして急遽即席で替弓講習を受講するという情けなさ。野々市の皆さん、「月例射会などでしっかり準備して常にイメージトレーニングをし、いざという時に慌てなくても済むようにしよう！」なんて言っている中島のこれが実態ですよ…。

そんなこんなでいよいよ矢渡しに臨みます。所作は、ちゃんと出来ていたかとはともかく落ち着いて目も泳がずに体が勝手に動いてくれました。が、肌脱ぎ・肌入れ時の立つタイミングは全くの自分のフィーリング、これは後で木下外治先生に丁寧に実演を交えて注意を頂きました。介添の冊子も持ってきていたので読めばちゃんと書いてあったのですがそこはパニックのなせるワザ、自分が副読本を持ってきている事さえ頭にはありませんでした。

甲矢、先生には申し訳ないのですが弦が上がらない事ばかりを願っていました。弦音がして磨きこまれた道場の床に逆さに映る岡本先生の弓手にはしっかりと張顔のままの弓が見えました。よし！これで替弓の出番はなくなったぞ、と。すると乙矢を手にする頃には先日の北信越の講習会で加藤出範士が仰っていた「自分が間違えないように、ではなく射手の成功を願って気を送り続ける事こそが介添の役目」という言葉が浮かんできて、あとは只管項を伸ばして心の底から「的に入れー！」とそれだけを念じ続けました。放たれた矢が静寂の中に晴々と的中音を響かせたときには両手指建で控えたままの姿で自分も残心をとっていました。間違いは立つタイミングだけでなく他にもたくさんあり後から指摘を頂きましたが、また一つ自分の財産となる良い経験を積む事が出来ました。退場して替弓を先生のところへお持ちした後で安堵感から一瞬抜け殻状態に…、朝のこれだけで一日が終わった気分でした。

閉講の挨拶で岡本先生は「こんどの連合審査では皆さんの良い射が出れば合格率は50%にも80%にもなり得ます、どうか一人でも多くの五段が出る事を期待しています」と締めくくられました。7月3日、受審予定の皆さんが持てる精いっぱい悔いなく出せるように石川から私だけでなく多くの仲間が気を送り続けますからね！

平成 28 年 6 月 21 日